

2 月度議員懇談会



開会の挨拶を行う八木会頭

2 月度議員懇談会を2月1日11時より福井商工会議所ビルにて開催し、議員78名が参加した。

開会の挨拶で八木会頭は、まず発災から一か月が経過した能登半島地震について触れ、今なお被災地が大変な状況にあることや、福井商工会議所が実施した会員事業所への被害状況調査を踏まえて「石川・富山の会議所と綿密な連携をとりながら、義援金や職員派遣など持続的な支援をしていきたい」と述べた。

また、北陸新幹線開業を控え、福井が大きく変化する年になるとし、令和6年の当所の活動指針として「五感全開！ふくい2024」を示した。「い

ろいろな人が福井を『感じ』、訪れた人が『感激』『感動』し、県民は『感謝』の心でもてなしをする。このような五感を全開で刺激するような動きを進めていきたい」と意気込んだ。

続いて卓話に移り、(株)ALLCO NECT代表取締役社長の岩井宏太氏と、執行役員で第四事業本部部長の西川卓伸氏より「社会を、福井をにぎやかに！」と題して講演が行われた。

まずは、岩井氏より「社会をにぎやかに！」という同社の企業理念が示され、インターネット関連サービスの他、音楽フェス「ワンバークフェスティバル」の開催や、プロバスケットボールチーム「福井ブローウィングス」のリーグ参戦など地域振興事業について紹介された。地域振興事業の目的として岩井氏は「県外客の呼び込みはもちろんだが、県内資本によるイベントやプロスポーツの開催により、県民が楽しんでくれるとともに、地域の格を引き上げるエンタメの地産地消を目指して取り組んでいる」と語った。

続いて、同社が携わるアリーナプロジェクトについて触れ「プロバスケットボールリーグへの参戦と併せて、地域のの人に求めてもらえる事業として、福井に新たな風を巻き起こしていきたい



地域振興への取り組みを紹介する岩井氏

い」と活動への協力を呼び掛けた。

次に西川氏より、アリーナプロジェクトの詳細について解説が行われ、新幹線開業後のさらなる交流人口拡大と、地域経済の持続可能な発展につなげるという目的が示された。アリーナは、バスケットボールをはじめとしたプロスポーツやコンサートの開催による地域のにぎわいや交流創出に加え、防災機能などの役割も備え、地域と共生する施設を目指す。その他、アリーナの完成イメージや機能、建設による経済効果についても示され「地域住民の声をお聞きしながら地域に愛される施設を作っていきたい」と意気込みを語った。